

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE増設2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	春日部市複合型子育て支援施設	階数	地上2F
建設地	埼玉県春日部市粕壁	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	250 人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,500 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2019年8月2日
敷地面積	3,129 m ²	作成者	小幡久美子
建築面積	1,311 m ²	確認日	2019年8月5日
延床面積	2,312 m ²	確認者	渡部恵輔



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: A+ B+ B- C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 2
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 ・保育所及び児童発達支援センターとしての機能を満たし、共有エリアを設け、2つの機能の自然な交流を促し、かつ、2つの機能のエリアは明確に分離し、子供が安心して生活できるゾーニングとしている。		その他 ・歩行者が多い環境のため、交差点での見通しを確保し、建物による圧迫感を軽減する計画としている。
Q1 室内環境 ・各室ごと、主に遮音壁で区画・空調を行い、快適な室内環境としている。 ・児童が生活する室は、外部に面し、自然環境を取り入れるように配慮している。	Q2 サービス性能 ・発育年齢や障害の特性に合わせた様々な高さ設定に配慮している。 ・判りやすい案内表示などにより、子供の成長を促すユニバーサルデザインとしている。	Q3 室外環境(敷地内) ・緑地帯を設け、中高木を緑化基準を超えて整備している。 ・地域住民の方々と交流できる場として花絵花壇を中心としたオープンスペースを整備する。
LR1 エネルギー ・太陽光、太陽熱を取り入れ、効率良く自然エネルギーを活用する計画としている。	LR2 資源・マテリアル ・中水に雨水利用システムを取り入れている。 ・有害物質を含まない材料を使用している。	LR3 敷地外環境 ・駅に近い東側及び北側の道路の歩道を拡幅し、歩行者が通りやすい環境を提供する計画としている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
春日部市複合型子育て支援施設**

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C
評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.4	
Q1 室内環境					0.40		-	3.1	
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				3.6	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		近隣が住宅街のため、遮音に配慮した。		5.0	0.30	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.30	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.3	0.35	-	-	3.3	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.60	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 ソーン別制御性				3.0	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式		一部床暖房を採用している。		4.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-	3.0	
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-		
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				3.0	0.25	-	-	3.0	
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.5	
1 機能性				3.8	0.40	-	-	3.8	
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-		
3 パリアフリー計画		公共建物のため、特に配慮をしている。		4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				3.0	0.50	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-		
3 内装計画		事前に施主と綿密に計画を行った。		5.0	0.50	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		主に幼児が生活する場があるので、内外装材には気を配った。		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	設備配管に配慮した設定を行った。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	開口をできるだけ多く取り、開放性を増す設計とした。	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		将来の機器交換等に対応した。	4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		アドバイザーの意見を取り入れ、配慮した。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		B P _{im} = 0.61	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.87	2.6	0.50	-	-	2.6
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用率11%	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		C O ₂ 排出率 = 93%	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	送迎用バスを運行し、交通負荷を抑制する。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

使用評価ソフトウェアバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	春日部市複合型子育て支援施設	BEE	1.3	BEEランク
------	----------------	-----	-----	--------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.2	+	3.0	=	6.2
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上	
				

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減		スコア平均	3.2
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.2
太陽光発電設備・太陽熱利用設備を採用し、地球温暖化防止策を取っている。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
園庭に天然芝を採用し、温熱環境の悪化防止を行っている。			

: 入力欄